

園児らによるアユの稚魚放流 おおきくな〜れ! (馬場目中屋敷橋付近)



秋田県五城目町
朝市と城のある町

みんなの町議会

主な内容

- 6月定例会の概要 2
- 連合審査会 3
- 一般質問に11名登壇 6~17
- わたしの居場所・がんばってます 20

Contents

No.163
2025.7.1

6月定例会は6月9日から16日まで、8日間の日程で開かれた。

初日

1件の議員研修報告の後、荒川町長は行政報告で、個人情報情報の漏洩事故について謝罪し、個人情報情報の取り扱いについて点検・評価・見直しの指示を出すなど、再発防止策を示した。



- また、
- 新たな集落支援員の委嘱
 - ふるさと納税返礼品としてJAによる「あきたこまち」提供や、移動販売車の協議
 - 防災監の配置と地域防災計画の改訂
 - ごみ処理広域化に向けた基本協定の締結
 - 「こども家庭センター」設置のため「こども担当」を配置
 - 全国朝市サミットの11月1日開催と朝市活性化支援員の委嘱
 - 五城目町立地適正化計画を3年間で策定
 - 圧送式給水車の購入
 - 馬場目川維持修繕工事の発注状況
 - 教育留学事業を町単独事業として実施
 - 矢田津世子遺稿集より、童話「賢いめだかの兄弟」の絵本と紙芝居が完成
- といったことを述べた。

2日目

冒頭、荒川町長は令和6年度町県民税の徴収漏れについて

て陳謝し、改めてチェック体制の強化を行い、再発防止に取り組みむことを指示したと述べた。

一般質問に7名が登壇。朝市ふれあい館の活用、集落支援員による地域活性化、五城目高校の魅力化、児童生徒の学用品費などの無償化、被災者のその後の生活、老人の町のこれから、川と触れ合う機会などについて質問した。

3日目

一般質問に4名が登壇し、町キイチゴの生産について、備蓄米、ひきこもり対策、デジタル専門監採用などについて質問。その後、当局より令和7年度一般会計補正予算案など議案14件が上程された。

4日目

連合審査会の後、各常任委員会審査を行った。

最終日

各常任委員長報告の後、13議案を全会一致で可決、承認、報告済とし、1議案を賛成多数で可決とした。陳情3件を全会一致で採択し、委員会提出議案3件を可決。人事案件3件に同意し、閉会した。

定例会で決した
主な内容

- 高機能消防指令センター情報系更新機能強化工事
98,665,600円
- 五城目町国民健康保険条例の一部改正
- 令和7年度一般会計補正予算の主なもの
五城目高校の魅力向上支援事業
292万円
- 湖東老健移設のための「ふるさと融資」貸付
25000万円
- 子育て世帯物価高騰対策事業（高校生まで一人2万円）
1364万円



存続へ、いよいよ動き出す

(椎名 志保)

国保税率改正(引き下げ)で連合審査会

「運営状況、決算状況を見ながら毎年税率を検討」

「安定的な財政運営の確保と、国保加入者の負担軽減を図る」

議案第36号国民健康保険条例の一部を改正する条例改正案は、「税」であるため総務産業常任委員会に付託された。しかし、国保事業は教育民生常任委員会の所管であり、両常任委員会合同で審査することが望ましいことから、12日連合審査会を開催した。



連合審査会で税について議論

委員から「本町の医療費水準について、県平均との比較をおこなっているのか」との質疑に「医療費指数については、全国平均を1とした場合、本町は1・115で医療費がかかっている。近隣町村では、井川町1・140、八郎潟町1・007、大潟村0・906である」と当局から答弁があった。

また、「早朝健診を含む特定健診の受診率向上が、医療費抑制のために必要であり、受診率は35・6%であった。国保加入者の内、未受診者の行動変容を促す施策を行っている」とあったが、現在はどうなっているか」と質疑があり、当局から「特定健診の令和6年度受診率は38・8%であり、若干の上昇である。未受診者は依然として一定数おり、その対策を毎年実施している。早期発見が医療費の削減につながるから、医療費適正化対策に力を入れなければならない」と答弁があった。

委員から「令和8年度以降も税率の見直しを行うのか、数年にわたって今回の改正税率でいくのか」との質疑があり、当局から「税率の乱高下は被保険者の混乱を招くという意味で避けたい。今後の動向を注視し、毎年度シミュレーションの見直しを行い、運営状況、決算状況を見ながら翌年度税率の検討を行っていく」と答弁があった。

本会議において 賛成多数で可決

付託された総務産業常任委員では全会一致で可決すべきものとしたが、本会議で異議が出された。

反対討論 斎藤 晋

1億円以上の余りがあり、基金が6000万円程度が妥当であるならば、近づけるべき。県が示したものは最大値であり、500万円になるはずがない。作為的なものを感じる。

賛成討論 椎名 志保

保険税額がモデルケースで示され、更に今後3年間のシミュレーションにより、基金を活用しながら加入者の負担を抑え、安定的な運営に努力していく考えが理解できた。また、健康増進となる保健事業の拡充、税率の見直しを毎年行っていくといった意見の一致が見られた。

賛成

石井和歌子、伊藤 信子、中村 司
佐沢由佳子、石川 重光、松浦 真
工藤 政彦、椎名 志保、石井 光雅
佐々木仁茂、館岡 隆

反対

小玉 正範、斎藤 晋

(議長は採決に加わらない)

(石川 重光)

より迅速な出動へ



車両に搭載のAVMシステム

高機能消防指令センターの情報系機器更新と、消防・救急車両への出動車両運用管理装置の整備に関する工事契約について質疑が行われた。契約金額9866万円、完成予定は令和8年2月20日。

委員より「今回の契約金額は高額であるが、データなどの更新のみか、機器本体も含めた全面的な更新か」との質疑があり、当局は「主に指令センターのサーバーや通信機器など情報系機器一式の更新」と答弁。

また、「この更新によって町民や消防体制にどのようなメリットがあるか」との問いに、当局から「新たに導入するAVMシステムにより、119番通報を受信後、災害地点と最適ルートが出動車両のモニターに即時表示され、迅速かつ的確な出動が可能となる。搬送時間の短縮など、町民の安全確保に資する」と答弁があった。

教育民生 常任委員会

沈下のあった 町道改良工事完成



馬場目川沿いの町道川反通線（馬城橋付近）

「今回の改良工事で二度と沈下がないようになったか。また、近隣住民の車庫内も沈下の影響を受けている」との委員からの質疑に、「二度と沈下がない対策ではない。県でも調査をしたが、根本的な原因が不明である。河川工事を施工するとなれば、近隣家屋の移転の可能性もあり、沈下した分を戻す工事をした」と当局から答弁があった。

また、委員から「埼玉県で起きた陥没事故のような大規模な陥没につながる危険性がある箇所を把握しているか」の問いに、「本町の管は細く、地中深く埋設されていないことから、大規模な陥没になる危険性はない。また、下水道法に腐食の可能性が高い管を5年に一度点検する規定があることから、カメラや鏡による点検を行っている」と答弁があった。

総務産業 常任委員会

健康は健診から

委員から「早朝健診の受診率を上げるため、工夫しているか」との質疑があり、当局から「町は秋田県医師会と連携し、6月から12月1日まで個別医療機関で特定健診と後期高齢者健診を実施。8月の早朝健診に加え、働く世代への配慮として、10・11月に日曜健診を行う。がん検診は、国保以外の方も申込可能であり、年1回の機会を逃さぬよう



健康寿命をのばそう

う周知に努める」と答弁があった。



防災監の活躍に期待

防災意識の向上へ

4月に防災監が着任したことを受けて、水害後の受援体制や町全体の防災状況について質疑があった。

防災監は「これまでの災害対応経験を活かし、町の防災体制強化に取り組んでいく。当町は、水害の対策強化が必要である一方、国の主要活断層「北口断層」（約26km）が町内にあり、約1200年前に活動した記録があるため、地震対策も重要と認識している。内陸型地震の発生周期（800〜1000年）を考えると可能性はあり、熊本地震や能登半島地震の教訓を踏まえ、防災意識の醸成と備えの強化を進める必要がある」と答弁。

水害への意識は強いが、地震対策の重要性を再認識したとの意見があり、防災監の専門知識を活かした継続的な情報発信と意識啓発への期待が示された。



備品が充実される高千公民館

令和7年度のコミュニティ助成事業は、高千町内会に249万円を助成する。整備する主な備品は、除雪機、エアコン、机、椅子など。

町内会活動を応援

所管事項

税務会計課における軽自動車税減免申請書の誤配による個人情報漏洩事案や町県民税徴収漏れ事案について、職員の事務引継ぎを十分にするとともに職員がそれぞれ課内の事務状況を確認し共有していく姿勢が必要であり、意識を高めた再発防止に努めるよう指摘した。

（石川 重光）

農事組合法人などの 事業推進を図る

- ・団体営土地改良事業費補助金 576万円
- ・夢ある園芸産地創造事業費補助金 48万7千円

団体営土地改良事業費補助金は、高崎・館越地区ほ場整備事業の調査計画の現況平面図作成に係る県補助金である。また、夢ある園芸産地創造事業費補助金は、農事組合法人杉沢ファームの枝豆収穫後の低温貯蔵庫の導入に対する県補助金である。

委員から「高崎・館越地区の事業の進捗と今後の予定は」の質疑に「令和8年度事業採択に向け進めている。採択となれば、工事開始は令和9年度になる」と答弁があった。

町とこども園の連携強化を

町長 更なる協力体制を整える

佐沢 もりやまこども園は、町唯一のこども園であり、五城目の宝である子どもたちの育ちを担う重要な場である。町は、保育料や給食費の無償化、医療費の高校生までの助成など、子育て支援に手厚いが、こども園との関係性には距離を感じられる。保育の現場で尽力する園と、町が目指す子どもの育ちへのビジョンを共有し、社会福祉法人と行政の制度上の立場の違いにとらわれず、より深い連携を図るべき。町長の考えを問う。

町長 子どもは、町の宝という認識のもと、こども園の安定的経営を支援している。更に、保育と教育の一貫性、幼児教育と小学校教育の連携を図るため「架け橋プログラム」を策定。その協議の中で、子どもたちの心身の健やかな発達と豊かな育ちを支えるた

少人数学級実現へ

佐沢 五城目第一中学校の今年度の1年生は、小学校時は2学級だったが、支援学級の3人を除き40人未満となるため1学級になった。実際は42人で過ごす時間が多く、教室の狭さ、教員の負担も大きいなど課題がある。文科省は、35人学級を2026年度の中一から順次導入予定だが、この学年には適用されない。十分な教室数があり、少人数学級でのびのびとした教育環境を整えるため、学校や県と協議すべきでは。

教育長 来年度入学の中一から段階的に35人学級が適用されるため、現在の中一は対象にならない。チームティーチ

朝市ふれあい館の有効活用を

佐沢 地域交流センターとして建設時活用した国の補助金の条件により、物品を販売することが出来ない場所であると聞いたことがある。平成23年に建設してから10年以上経過しているが、条件は緩和出来るのか。



五城目の顔として活用を

町長 文化・交流などのコミュニティ活動を支える中核的施設、中心市街地の活性化に寄与する施設として有効活用を努める。用途変更も視野に入れ、庁舎内で協議していく。条件緩和により用途変更となった場合には、指定管理の募集も検討する。

佐沢 施設管理、場所貸し、朝市の出店管理だけではなく、観光案内や独自の企画で交流の場を作るなど、もっと有効な活用方法があると考え。指定管理募集も含め、町として考えはあるか。

あなたにかわって聞きました 一般質問



一般質問動画はQRコードから



地域の人に見守られ朝市をお散歩

め、更なる協力体制を整えていく。

町長 当時の諸条件に変更はないが、施設の供用開始から10年以上が経過しており、当初の補助目的は達成したものとみなされることから、条件の緩和は可能と考える。

一般質問

過去最多 11議員が登壇 我が町政を問う

一般質問とは？

- ・年4回の定例会において、議員が町政全般について現状や方針を問うものです。
- ・答弁を含む一人当たりの持ち時間は60分で、事前通告制が採用されています。
- ・質問をするかしないかは、議員個人の判断によります。

質問者

佐沢由佳子 議員

- 朝市ふれあい館の活用について
- 少人数学級実現へ
- 町とこども園の連携強化を

石川 重光 議員

- 集落支援員による地域活性化について
- 朝市活性化支援員活動について
- 企業誘致活動の現状と今後の取り組みについて

松浦 真 議員

- 五城目高校魅力化へ舵をきるのか。きらないのか。
- 森山の現状は
- 五城目第一中学校の内申点について
- こども基本計画（公園・遊具のあり方含む）について
- 大川の水門および堤防について
- 5つの柱の現状は

工藤 政彦 議員

- 児童生徒の学用品等の無償化について
- 人口減少、少子化対策について
- 町内会長とのホットラインの進捗状況について

椎名 志保 議員

- 被災者のその後の生活は
- 町の子どもの保育・教育をどう考える
- 介護施設の存続は

斎藤 晋 議員

- 老人の町、これからどうしたい
- 少子化をどう食い止めるのか。どう増やすのか
- 高齢者と若者の協働の町を作るために
- 町長はこれから自分の理想を現実にするために、夢が有るはず

石井和歌子 議員

- 川と触れ合う機会を
- 薪の調達の情報提供を

小玉 正範 議員

- 町キイチゴ生産について
- 各企業等の人手不足対策
- ゴミの分別回収
- 医療・保険関係

伊藤 信子 議員

- 備蓄米について
- 買い物弱者支援のその後
- 五城目町宣伝活動について

石川 交三 議員

- ひきこもり対策で「五城目方式」を構築しよう
- 「平和の礎」に、わが町出身者で未刻銘の方がいるのではないか

中村 司 議員

- 町デジタル専門監採用について
- 町外人材及び民間活力の活用について
- 街路樹のあり方について
- 五城館の改修計画について

* 誌面の関係上掲載できなかった●印の質問については、町ホームページにて議会映像を配信しておりますのでそちらをご覧ください。



五城目町議会映像配信中
www.gojome-town.stream.jfit.co.jp

当町の公園と遊具は

町長 来年以降に予算計上



子ども基本計画に具体性を

松浦 子ども基本計画の各事業の予算規模、それに伴う町民の声を反映すべきでは。
町長 本計画には予算額を示していない。各事業について今年度予算の有無を明示した実施計画を作成する予定。
松浦 公園と遊具・体育器具の安全管理の徹底も「これまでどおり継続」とあり、「今後とも計画的に取り組む」と記載されているが、具体性がない。設置場所やスケジュールは。

子ども基本計画・公園のあり方は

一般質問



まつうら 松浦 まこと 真

一般質問動画はQRコードから

・地域ブランディング
 町のシンボルである森山の整備について関係者と協議を進める。五城目朝市通りは商店会と連携し、町の魅力を高める方策を検討中。
 ・定期的な座談会
 座談会は各地区町内会長会・役員会を通じ、10月・11月に開催する方向で調整。
 ・五城目高校存続
 高校存続施策として、授業用PC購入支援、給食費支援、五城目高校教育振興会補助金増額を補正予算に計上した。
 ・木材製品利用促進
 五城目産木材製品の利用促進を図る仕組みづくりは、早

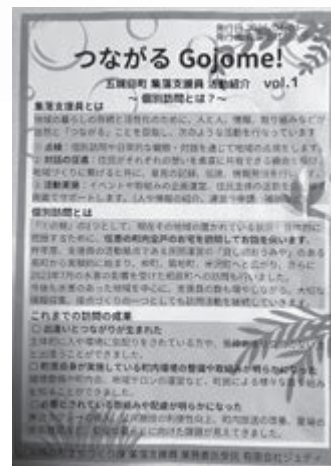
五城目第一中学校の内申点は
松浦 「内申点を意識して生徒が発揮するのは、主体性ではなく従順さではないか」という指摘を2025年の文科省有識者会議で京都大学西岡加名恵教授が示している。五城目第一中学校でも、数年前から「手の挙げ方」や「生徒会・委員活動アピール」などで評価が上がり、教員は従順な生徒を育てる構造となっていると感じる。学校長や教育長はどこまで把握しているか。



子どもの意見を取り入れた学校運営を

集落支援員の活動とは

町長 コミュニティナース活動



各世帯へ配付されたチラシ

石川 国から専任支援員一人当たり500万円、兼任支援員一人当たり40万円を上限に財政支援がある。本町の専任・兼任支援員一人当たりの必要経費はどのくらいか。
町長 令和6年度の集落支援員に関する費用の実績は、専任が1名で393万3989円、兼任は3人で72万円（一人当たり24万円）であった。令和7年度は専任が1名で430万2千円、兼任は12人で約169万円（一人当たり14万1千円）。経費の内訳は、支援員への

石川 支援員それぞれの成果目標と達成度は。
町長 令和6年度は6町内会236世帯を戸別訪問し、訪問結果について健康福祉課や地域包括支援センターと情報共有できたこと（面談率44%）。今年度は、5月中旬に畑町118世帯を訪問し、62世帯と面談できた（52%）。

石川 3月定例会で「支援員を新たに配置し、出店者の掘り起こしを急ぎます」と町長の施政説明があった。支援員の具体的活動内容、その成果目標は。
町長 活動内容は①朝市の状況調査と課題整理 ②課題解決や出店件数増加につながる具体的方針の検討 ③新規出店者の掘り起こしや情報発信であり、これらについて、週5日、1日4時間を活動時間と想定している。
 また、新規定期出店者3件増を目標とするとともに、現出店者の状況や課題を整理した台帳の整備である。

企業誘致の取り組みは
石川 昨年3月に町企業立地推進基金（一億円）が廃止された。町の誘致に対する意欲の後退とも捉えられる。公約に掲げた「時代と地勢に合った企業誘致に努める」をどのようなビジョンで、どのような企業の誘致を目指すか。
町長 町の8割が森林で占められていることを踏まえ、森林や木材を活用した企業誘致のための情報収集や関係づくりを進める。また、立地適正化計画を策定し、立地環境の整備を促進していく。

一般質問



いしかわ 石川 しげみつ 重光

一般質問動画はQRコードから

石川 集落支援員の活動内容は。
町長 有限会社ジュディに委託する活動は、町全域を対象に地域の状況を調査しつつ、地域の方々とつながりながら、医療や福祉、行政への橋渡しなどを行うコミュニティナース活動。浅見内活性化委員会は兼任支援員として、みせつこあさみなどを通じて地域調査し、地域の課題を報告。

朝市活性化支援員活動は



新規出店者が望まれる朝市

教育長 中学校では、厳正で公平な調査書や学習成績一覧表を作成するため、校長・教頭を含めた教員で調査書作成委員会を組織している。必要に応じて教育委員会として指導するとともに教員の意識改革研修を実施する。
 また、子どもの意見聴取として「みなさんが願う人生や社会にするために、学校でどんな学びが大切ですか」と聞き、公表している。
 今後も、小中学校には「問いを発する子ども」の育成と批判的思考力の涵養を求めている。

被災による要支援者 今後も見守りを

町長 地域ネットワークの構築必要

町長 災害救助法に基づく応急修理は225件、1億3千7232千円で、期間を災害発生日から1年に延長し実施。被災者再建支援制度の基礎支援金が23件、加算支援金は令和7年5月末時点で191件に支給。令和8年8月13日の期限であり、活用状況を確認し、リフォーム補助制度も周知していく。

町長 令和8年度、幼児教育と小学校教育の連携を図るため「架け橋プログラム」を策定予定。教育・保育の充実、環境整備にこども園と更なる協力体制を整えていく。

町長 昨年の訪問介護報酬の引き下げ、光熱費や人件費の上昇、物価高騰で町社会福祉協議会や訪問介護事業所は苦しい運営状況だ。第9期介護保険事業計画では在宅での医療・介護の連携推進で、住み慣れた地域で在宅での生活の継続を目指すとしている。利



連携強化が望まれる町社協

あなたにかわって 聞きました 一般質問



一般質問動画はQRコードから

椎名 未曾有の大災害から2年。困難な生活を余儀なくされていた被災者は、平穏な暮らしを送ることができているか。住家の改修や生活支援制度の利用状況は。

また、今になり床板が落ちている様子など困難な生活が聞かれている。被災の度合により、十分な支援が受けられていないケースもある。どう支えていくか。

町長 災害救助法に基づく応急修理は225件、1億3千7232千円で、期間を災害発生日から1年に延長し実施。被災者再建支援制度の基礎支援金が23件、加算支援金は令和7年5月末時点で191件に支給。令和8年8月13日の期限であり、活用状況を確認し、リフォーム補助制度も周知していく。

町の子どもの保育 教育どう考える

町長 地域包括支援センターで昨年度700回の見守り訪問を行い、今年度も継続していく。

椎名 住める空き家へ繋いだり、単身でも優先的に公営住宅への入居を可能とするなどの対応を提言する。



こども園と深く関わりを

よるお迎えの連絡が来ることだ。症状が軽い場合など、看護師が常駐しているこども園で、体調不良児対応型保育を実施できないか。

町長 専門資格を有する人材確保、医療機関との連携が課題。園と更に協議していく。

椎名 八郎潟たいようこども園では、すでに取り組んでいる。参考にすべき。

介護施設の存続は

町長 昨年の訪問介護報酬の引き下げ、光熱費や人件費の上昇、物価高騰で町社会福祉協議会や訪問介護事業所は苦しい運営状況だ。第9期介護保険事業計画では在宅での医療・介護の連携推進で、住み慣れた地域で在宅での生活の継続を目指すとしている。利

児童生徒に 入学準備助成金を

町長 実現の可能性を調査する



子どもたちは、町の宝物

工藤 町は教育に力を入れ、給食費に加えて学用品費も無償化するべきであり、小・中学校に入学する子どもの保護者に対し、小学生5万円、中学生10万円を入学前の年度に支給することを提言する。

町長 少子化対策として、婚姻数増加と子育て支援充実が重要と考える。具体的には、子育て支援事業推進や教育・保育の質向上、相談支援充実などを行う「五城目町こども計画」を策定し、若者定住促進策として東京での交流人口増や起業支援事業を実施している。今後も町民と協力して、子どもや若者を地域全体で支える体制づくりに努めていく。

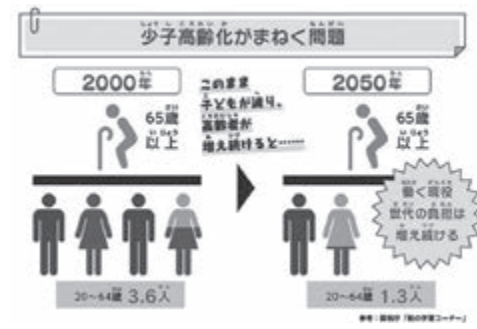
町長 現在、子育て支援充実が重要と考える。具体的には、子育て支援事業推進や教育・保育の質向上、相談支援充実などを行う「五城目町こども計画」を策定し、若者定住促進策として東京での交流人口増や起業支援事業を実施している。今後も町民と協力して、子どもや若者を地域全体で支える体制づくりに努めていく。

町長 町内会長との円滑な情報共有を目的とした「ホットライン」の構築は、7月中の完成を目指して準備が進められている。連携強化にあたり、

町長 町内会長との円滑な情報共有を目的とした「ホットライン」の構築は、7月中の完成を目指して準備が進められている。連携強化にあたり、

町内会長とのホット ラインの進捗は

工藤 荒川町長の公約「明日の五城目町のビジョン」では、町内会長（70町内）とのホットラインの確立が重要視されている。これは住民の声を迅速かつ的確に行政へ伝え、町政に反映するためである。行政と住民の距離を縮め、相互理解と信頼関係を構築することで、より良い町づくりを目指すことを期待する。進捗状況について問う。



子どもたちの負担はますます大きく

各町内会長の負担が増加しないよう配慮し、個々の事情にも対応する。コミュニケーションの深化を通じて課題を洗い出し、改善に取り組む。また、LINE公式アカウントの運用方針も策定し、住民との情報共有を強化したい。



そうだ、町長に聞いてみよう

町道の破損箇所の整備をお願いします。
〇〇町内会長より

川と触れ合う機会を

町長 河川環境の理解と愛郷心を育む



洪水の爪痕が残る馬場目川上流

あなたにかわって
聞きました
一般質問



いし い わ か こ
石井和歌子

一般質問動画はQRコードから

石井 水害対策のために大切なことは、洪水の記憶を持ち続けることであると考えます。川遊び体験やクリーンアップなど、川や川周辺で行うイ

町長 小学校と中学校で防災教育を行っている。現在に行っていないが、「きやどっこまつり」では魚つかみ取り体験で、川や水と触れ合う機会を作っていた。体験活動としては、中学校と五城目高校の生徒が馬場目川のクリーンアップを行っている。県に「河川改修を進める上で適切な河道掘削を実施し、親水機能を高めると共に、住民が河川への関心を高めるような対策を」と要望書を提出している。町としても河川環境の理解と愛郷心を育む取り組みを行う。



集められた流木



盛況だった男鹿市の流木バンク
薪として使用できるものも多数あり

石井 「親子やグループで参加できる水質調査」や「夜間しか見られない水生動物観測」などターゲットを絞ったイベントで、その内容に詳しい方に説明してもらい、参加者に川に対する知識を深めてもらうことはできないか。

町長 現在、町では川について親子やグループで参加する事業は行っていないが、今後指導者の確保やニーズなどを確認し、協議していきたい。

石井 平日勤務の方や、土日が休みでも午後や夜間の時間帯が都合の良い町民もいる。今後、ひとりひとりの事情に合わせた開催を期待したい。

町長 現在、熊の出没が懸念されていることから、夜間の屋外での活動は避けたい。

新調達の情報提供を

石井 新規に新ストープを住宅の暖房の手段として利用する方がいる。薪の確保のために流木や伐採した庭木、山林の切り株などの情報提供はできないか。

町長 これまで災害で発生した流木などについては、問い合わせがあれば対応している。災害により発生した流木については突発性の高いものであり、山林の切り株についても個人の山におけるものが主となるので、町として情報提供するのには難しい。

石井 まとめられている状態では廃棄物といわれるものを分別することで、資源として利用できるようになれば考える。

65歳・75歳以上の高齢者は

町長 65歳以上3,872人・75歳以上2,358人 高齢化率 50.28%

あなたにかわって
聞きました
一般質問



さいとう すすむ
斎藤 晋

一般質問動画はQRコードから

高齢者の生きがい・やりがい

斎藤 高齢者の生きがい・やりがいを生み出すため、町長はどうしたい。

町長 自分の存在意義を感じ取ることが、生きがい・やりがいに大きく貢献する。居場所を作るため、気軽に集える民間スペースが増えていることは歓迎すべきことであり、町としてこの流れを止めることなく更なる創出に努める。また、高齢者が培ってきた技術を発揮できる機会の創出・地域活動、趣味の活動などへ積極的な参加も大切なポイントである。これらを通じて日々の生活を充実させることにより、生きがい・やりがい

は自然に生み出されるところ。

高齢者に優しい町に

斎藤 町への申請書が書けない高齢者が多くいる。申請しないと不利益になることもある。

町長 書類作成などで困る人がいる場合、窓口でも対応するが、各地区の民生委員へ相談すれば、役場にもつながり、対応できるものと考えている。



窓口相談に来られる高齢者

これからの町はどうあって欲しいか、町長の夢は

町長 私の夢は、国内外から多くの方が町の宝である森山を訪れ、町が賑わい、更に町の魅力がアップしていくことである。また、老若男女の住み良さが増し、愛郷心の醸成と幸福度アップを図り、人と企業に選んでもらえる町にしたいと思っている。

- その他に
- 65・75歳以上世帯数は
 - 少子化を食い止める策は
 - 全国一子育てしやすい町にするためにどうしたい
 - 10年後の出生数は
 - 移住定住したい町を作るためどうしたい
 - 高齢者と若者の協働の町を作るために何を
 - 起業する若者・高齢者のために町の手助けは
- などを質問した。



町のシンボル森山

備蓄米放出後の影響は

町長 今まで以上に注視する

伊藤 農家が政府の備蓄米に協力し、米不足解消に貢献しているが、その後の放出や市場価格の変動によって、農家が不公平感を感じる事態が生じている。政府の買い取り価格と放出後の市場価格のギャップが生じ、その差額を農家が享受出来ないことで、今後、備蓄米への協力を避ける可能性がある。農家の理解を得るためには、政府や自治体がインセンティブを提供するなど、適切な政策が必要。また、政府の補助や市場価格変動型の買い取り契約を導入するなど、どう考えるか。

町長 備蓄米の買い取りや放出後の市場価格に差があること、更にその差額が農家ではなく国の収入になることは、農家に不公だと町も疑念を抱いている。農業施策への不信

伊藤 前回の定例会において、農協などのように関わっていくのか、との質問に対し、近いうちに話し合いの場を設けるとの答弁だったが、進捗状況と今後の連携について説明を。

町長 4月にJ・Aあきた湖東を訪問し、担当レベルで具体的な連携方法を協議している。今後は支援の方法や条件

買い物弱者支援の
その後は

伊藤 前回の定例会において、農協とどのように関わっ



感で生産意欲の低下が懸念される。国の備蓄米に対する政策について今まで以上に注視していきたい。

について話し合い、事業を
実施していきたい。

伊藤 町には朝市、歴史的資源、自然、文化など多くの魅力があるが、その発信、宣伝活動にはどのようなものがあるのか。

町長 広報の発行、ホームページやエックス・フェイスブック・インスタグラムなどのSNSでの発信、動画を作成しYouTubeで公開、首都圏でのファンミーティングの開催、千代田区体育大会でのPRブースの出展、ふるさと納税の返礼品の紹介、朝市、キイチゴの宣伝を行ってゐる。今後はフォロワーの増加に努めるとともに、町公式ラインを開設し、防災情報などを発信していきたい。

伊藤 宣伝活動に対する予算額はいくらで、どのように活用しているか。成果や反響についての評価方法はあるのか。

町長 広報広聴費の予算額は925万円で、広報の発行や町ホームページの公開に使用。成果については、事務事

業検証シートの活用評価や決算審査、決算特別委員会を通じて事業評価を受けている。

伊藤 地域おこし協力隊や民間団体と連携し、動画制作、移住プロモーションを強化する考えはあるのか。

町長 新聞やテレビなどで多くの取り組みが取り上げられている。今後もブランド力を向上させるために取り組んでいきたい。

町長 新聞やテレビなどで多くの取り組みが取り上げられている。今後ブランド力向上させるために取り組んでいきたい。

各企業への人手不足対策は

町長 外国人材活用の説明会開催を検討

小玉 町では企業などの人手不足の状況を調査しているか。県では、本年7月をめどに外国人材活用への助成制度を作る予定である。町でも説明会開催などを検討しているか。

町長 県では、県内企業と外国人材のマッチングを加速化するため、企業説明会に対する補助金や外国人材を定着させるための補助金を新規に策定する予定である。町では現在、人手不足の実態を把握しきれていない。町内企業の実態調査や外国人材に対する意



識調査を検討している。それを受け、湖東三町商工会の協力を得て説明会の開催を検討していきたい。

キイチゴ生産は
日本一

小玉 キイチゴの宣伝費が計上されているが、その目的は。

町長 三菱食品株式会社と商品化したキイチゴグミを本年8月から全国販売の予定である。その商品や冷凍キイチゴなどのPRを支援するための予算である。

小玉 キイチゴの生産量は日本一である。キイチゴを町の特産品・ブランド化するには、生産を助成する制度を作るべき。若者にとっても、キイチゴ生産を魅力的な仕事にする必要がある。

町長 昨年の生産は707キログラム。果実のみの出荷では利益を得ることが難しく、加工することで付加価値を付けることが重要と考える。イチゴの商品を町の特産としてアピールできる機会であるため、生産者確保、ブランド化への支援をしつつ、今後の助成制度について検討する。

新版ごみ分別表
作るべき

小玉 次のごみは何ごみか。

町長 キーホルトは不燃ごみ、25センチ以下なら、小型家電回収ボックスでよい。プラスチック製動くおもちゃ・リチウム電池・キャリーバック(町指定袋入るサイズ)は、不燃ごみ。キャリーバック(町指定袋に入らない)、は粗大ごみ。

小玉 現在の状況にあった分
かりやすいチラシを作るべ
き。また、スプレー缶は穴を
あけずに出す自治体が増えて
いるが、町の対応は。

町長 ホームページに詳細な説明を掲載し、住民にわかりやすく周知していきたい。スプレー缶については、八郎湖周辺自治体では処理作業中の事故防止のため、穴をあけた缶を回収している。



RSウイルス
予防接種は

小玉 RSウイルスは呼吸器感染症の一般的かつ重大な原因。高齢者は特に重症化する場合がある。高額な接種代に助成するべき。

町長 RSウイルス感染症は、肺炎などの呼吸器症状が重症化しやすく、予防接種が発症予防として効果がある。現在、予防接種実施可能な医療機関が少ない。今後、町民に対し、RSウイルス感染症の予防について周知を図っていく。



小玉 骨髓バンクのドナー登録を促進し、助成制度・休暇制度などの整備をするべき。

秋田県は、制度面・登録者数でも東北6県でかなり遅れている。

町長 ドナー登録できる方は18歳以上54歳以下で、健康状態が良好な方となっている。役場の窓口にはパンフレットを配置し、今後周知に努めていく。

五城館改修計画は

町長 令和8年度上期までに判断

町長 各課の業務マニュアル作成やデジタル化に対応した例規の見直し、フロントヤード（住民と行政との接点）改革など。町民に対し、これまで行き届かなかった点を含め新たなサービスの提供や、利便性の向上が図られるものと考えている。

中村 高齢化が進む町において、町民への丁寧な説明と理解を得ることが必要である。町の考えは。

町デジタル化、その効果は

中村 4月14日に専門監3名に増員された。当町規模の自治体では、どのような効果を見込むのか。

あなたにかわって

聞きました

一般質問



一般質問動画はQRコードから



根上がり危険

街路樹のあり方は

中村 本年度予算で、街路維持補修事業1,163万円（内街路樹根上り対応工事494万円）を計上。本工事については前年度も実施しており、

町長 スマートフォンの操作方法に関する勉強会開催など、抵抗感を和らげる工夫が必要と考える。また「書かない窓口」「セルフ端末」では、有人、あるいは操作補助者を配置するなど町民の選択肢を準備し、デジタル化で取り残される方が発生しないよう配慮する。

町長 計画的な剪定を実施しながら、健全度調査で不健全と判定された樹木の伐採、通学路の安全確保のための剪定や根上り対策を今後5年程度を目途に優先的に実施する。中長期的には景観などに配慮した街路樹の植え替え、伐採を検討する。管理対象となる街路樹が減少することで、維持管理費用の減額を見込む。

中村 五城館多目的ホール改修に4,600万円と厨房拡張に3,200万円の概算設計額が示されている。また工期は6ヶ月程を要するとの調査結果報告があった。現在、五城館は棟あったか五城目が指定管理者であり、本年度は指定管理料2,064万円を計上している。人口減少が進む町において、計画については慎重に判断すべきと考え、町長の考えは。

五城館の改修計画は



当町の玄関口「五城館」

町長 現時点では具体的な改修計画までには至っていない。今後の計画については、様々な効果や課題を見極め、指定管理期間の満了や次期指定管理者の選定、改修期間などを考慮し、令和8年度上期までに判断する。

ひきこもり対策を「五城目方式」で

町長 組織づくりを固めたい

石川 ひきこもりは全国で推計146万人ともいわれている。大きな社会問題で深刻だ。町として一刻も放置できない。家族病理という言葉もある。わが町で実態調査をしたという記憶はない。

町長 「ひきこもり」「不就労者」「障害者」の年代別・地域別に詳細な把握が必要ではないか。

町長 実態調査はしていないが、対象者と家族から相談を受け、その都度対応に当たっている。民生委員や親戚の方から「家の中から出てくる様子もない若者がいるはずだが、食べて飲んでいいるか、どうやって暮らしているのか心配だ」といった相談が年々増加傾向にあり、実態調査の実施は今後の課題である。

石川 藤里町の実践例は「ひきこもり」をゼロにした素晴らしいものだ。わが町では今

あなたにかわって

聞きました

一般質問



一般質問動画はQRコードから

学校の実態はどうか

石川 五小・五中で五月病の発生はないか。不登校の実態はどうか。



まずは「対話」が大事

町長 組織体制づくり、人員の確保、社会福祉協議会との協議・連携が必要だ。特に社協との連携は重要で、私が先頭に立ち、組織づくりをしつつ固めていきたい。

石川 町長が大号令をかけて、荒川町政4年間で解決にめどをつけると明言してほしいが、どうか。

町長 マンパワーが必要だ。一歩前進できるよう進めたい。

後どうするのか。どの部署で誰が取り組むのか。地域を熟知している町内会・民生委員・町の福祉部門・包括支援センター・社会福祉協議会が連携した「総力を挙げ、英知を結集した」体制がとれないか。

「平和の礎」に、わが町出身者で未刻銘の方がいるのではないか

石川 太平洋戦争末期に沖縄戦で犠牲になった方々の名前を刻む「平和の礎」に本県出身の78人が未刻銘となっているとの報道があった。

民間の戦没者名簿によれば、わが町では11名が沖縄戦で戦死している。

教育長 五小の不登校児童は5人、うち90日以上欠席者が3人、五中の不登校生徒は5人、うち90日以上欠席者は3人である。不登校によるひきこもりはゼロである。長期欠席者は減少しており、学校の取り組みにより改善傾向にある。



犠牲者全員の刻銘を

全員が刻銘されているか。

町長 県を通じて確認した。刻銘がある本町出身者は9名である。

石川 刻銘のための努力を自治体として求められると考えるが、どうか。

町長 秋田県が窓口で、ご遺族の希望、申請に基づくものとなっている。

石川 県は「遺族への確認を積極的にはしていない」としている。

町として得られる情報を、ご遺族と県に提供して刻銘を進めるべきだ。

町長 正確な事実確認が必要で、県と連携して取り組み、町として対応できる可能な範囲で協力していく。

あれ

なんとなつたべが!

令和6年6月定例会一般質問より

陳情と意見書

6月定例会では3件の陳情を採択し、意見書を添えて関係機関に送付した。

採 択

◆ ゆたかな学びの実現及び教職員定数改善並びに義務教育費国庫負担割合引き上げをはかるための、2026年度政府予算に係る意見書採択の陳情について

陳情者

秋田県教職員組合

執行委員長 小林久美子



ゆたかな学びの保障を

採 択

◆ 地方財政の充実・強化を求める意見書提出に関する陳情

陳情者

連合秋田男鹿潟上

南秋地区連絡会

議長 太田 修

採 択

◆ 再審法改正（刑事訴訟法の一部改正）の意見書の採択を求める陳情書

陳情者

再審法の改正を

めざす秋田の会

弁護士 有働 悠一

秋田大学

名誉教授 工藤 俊輔

県商工団体連合会

会長 小玉 正憲

新婦人の会県本部

会長 佐藤 絹子

元湯沢市長 鈴木 俊夫

第2回

議会議員全員協議会

令和7年5月23日

協議案件

1. 国民健康保険における税率改正について
2. 正和会へのふるさと融資貸付について
3. 五城目高校について

報告案件

1. 軽自動車税減免申請書の誤配について
2. 公用車のNHK放送受信契約について
3. 五城目町子ども計画等について
4. 五城目町地域防災計画の改訂について
5. 町民まちづくりアンケート調査集計報告書の公表について
6. 廣徳寺橋橋梁災害復旧工事の施工状況について
7. 投票所（区）の再編について
8. 契約議案の法的根拠の整理について



上部工の設置が待たれる廣徳寺橋

議員研修報告

災害と議会・議員の役割

研修名

令和7年度

町村議会議長副議長研修会

研修期日

5月27日

研修先

東京国際フォーラム

参加議員

石川 交三 斎藤 晋

五城目町固定資産評価審査委員会委員の選任に同意



再 任

八木下真全氏 (57歳) 築地町



再 任

渡部 光人氏 (70歳) 大 川



新 任

伊藤 聡氏 (64歳) 町 村

(椎名 志保)

問

子ども施策は健康福祉課、教育委員会、住民生活課、まちづくり課など多岐にわたる。課を超えるための専門職員を配置するなど工夫はできないか。

1年前の答弁

子ども施策については、専門職員の配置や機構改革の実施に向けて検討を進め対応していく。

現在

出産から子育てまで切れ目のない支援ができるよう、令和7年度に機構改革を行い、健康福祉課内に「こども担当」を設置している。

今後、様々な要望に対応できるよう、有資格者の配置など、体制を充実させていく。



子どもや若者の意見を聴こう

問

赤倉山荘の設備の老朽化が進んでいる。町の大切な観光資源の一つとして、今後設備を補修・改修する予定はあるか。

1年前の答弁

現在の不具合箇所は専門業者が調査中である。町の指定期間が令和8年度末で満了するため、7年度末まで、将来的な「存続」、あるいは「廃止」について結論を出したい。

現在

建物の設備は老朽化が進んでいるが、不具合のあった塩素注入器は、昨年中に部品交換・配管の漏水箇所の修繕を完了している。施設の将来的な存続・廃止についての検討会の設置はこれからである。

今年度末までは、検討結果を示す。



泉質が評判の赤倉山荘

問

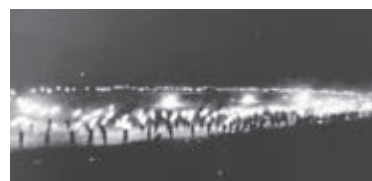
ふれあいや思いやりのある情操豊かな人間に成長することを目的に「五城目町子どもの祭典」を復活できないか。

1年前の答弁

今後、子どもたちの心に残る交流のあり方などを考える上で参考にする。

現在

「子どもの祭典」のような行事の復活は今のところ考えてはいないが、現在行われているイベントの中で、子どもたちの交流が充実できるように工夫していく。



思い出深い子どもたちの行事

問

町の宝である子どもたちの大切な居場所、貴重な複合遊具が撤去されたが、撤去の経緯と今後の予定は。

1年前の答弁

劣化が進んでおり、昨年6月から使用禁止としていた。修繕に約650万円かかり、数年でまた改修が必要になるので撤去をした。今後、町民の声を反映させながら進めていく。

現在

公園・遊具の設置については、町民からの意見と共に、県内外の事例も参考にしながら検討している。来年度以降の予算計上に向け、今年度は情報収集に努めていく。



遊具が撤去された広場

わたしの居場所

草刈りをがんばりながら
交友を深める



環境整備隊
『新里町自治会』

どんな活動をしていますか？

『新里町自治会』は代表の伊藤さんを中心に、公園の草刈りや花壇に花を植えるなどの環境整備を行っています。メンバーの石川さんが、子どもや孫が安心して遊べるようにと草刈りをしていったのが始まりです。他のメンバーが参加した当初は町内会として活動していましたが、3年ほど前に独

立し、現在は『新里町自治会』と呼ばれています。

メンバーに質問
活動への思いは？

「自分が住んでいる町内をいつでもきれいにしてお互い仲良くやっていきたい」

佐々木 淳さん

「草がそこにあるから」

伊藤 茂さん

「きれいにしたい」

近藤 茂孝さん

「いつでも道具で遊べるように」

石川 一成さん

新里町内には、この集会所前公園と、ひと回り大きな公園があるので、新里町外の方にもぜひ遊びにきてもらいたいです。

(石井和歌子)

がんばってます

柔道に懸ける



五城目第一中学校
3年

工藤 □□さん

私が今、全力を注いでいることは柔道です。父が試合をする姿を見て憧れを抱き、小学校二年生から続けています。

特に頑張っていることのひとつが、気持ちを強く持つことです。元々メンタルを強く保っていられる方ではないので、試合前に過剰に緊張してしまうことが多々ありました。出来るだけ緊張しないように、誰よりも練習の質を上げ、量をこなして「私が一番強い」と自信をもって言える状態に持っていくようにしています。

また、チームをまとめることも、頑張っています。キャプテンとして仲間を引っ張っていく立場にある中、全員を同じ方向に向かわせることは、

簡単ではありません。それでも、まずは自分が一番練習を頑張って、他の人も「やらなきゃいけない」という気持ちになってもらうように引っ張っていくことを意識しています。この二つ以外にも、頑張らなければいけないことは沢山あります。その全てを頑張って、全国ベスト8を目指します。

これからも、関わってくださる方々や保護者の方への感謝を忘れずに、柔道を楽しんで強くなりたいと思います。



(佐沢由佳子)

編集後記



日差しに夏の気配を感じる、爽やかな季節となりました。

今議会では、過去最多となる11人が一般質問に登壇し、二つの委員会で連合審査会が開催されるなど、さまざまな視点から活発な議論が交わされました。

町で今何が起きているのか、少し立ち止まって注目していただけたら嬉しいです。

「へえ、こんなこと話しているのか」と感じるものが、住み良い町づくりの第一歩かもしれない。

ご感想やご意見も、お気軽にお寄せください。

議会広報編集委員

佐沢由佳子 記

